

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	「里親養育」における宗教の社会参加 一天理教を事例として一
Title(English)	
著者(和文)	青木繁
Author(English)	Shigeru Aoki
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京科学大学, 報告番号:甲第391号, 授与年月日:2025年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:弓山 達也,川名 晋史,KIYAMA LORINDA ROBER,中島 岳志,畑 中 健二
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Institute of Science Tokyo, Report number:甲第391号, Conferred date:2025/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

## 論文要約

### 「里親養育」における宗教の社会参加 —天理教を事例として—

青木 繁

本論文は、日本における里親の約 10%が天理教信者であることに焦点を当て、天理教信者の福祉活動や社会参加における課題を明らかにすることを目的としている。調査は次の 5 つの項目から構成される。1) 天理教が実施してきた里親制度の歴史の文献研究、2) 天理教信者の里親へのアンケート調査、3) 天理教信者の里親への 2 種類のインタビュー調査、4) 天理教福祉施設の活動に関する調査、5) 地域の天理教支部教会の社会参加に関する調査、である。

はじめに、天理教が実施してきた里親制度の歴史に関する文献研究（第 1 章）を行った。天理教信者は、特徴的な救済観や子ども観を持ち、里親養育の動機は「ひのきしん」という独自の宗教的利他行動が関係していた。また、天理教は、100 年以上前に児童養護施設を開設し、現在も活動を続けており、天理教里親の数の増加に寄与した。近年、日本は国連の「子どもの権利条約」を批准し、それを受けて社会的養護の政策が変更された。子どもの権利擁護の趣旨から、施設から家庭養育への移行が進み、これも天理教の里親の増加と関連していた。

次に、天理教里親の概要についての調査（第 2 章）を行った。天理教里親連盟全会員にアンケート調査を実施し、里親の概要と動機、家庭環境、里子の概要など、全体像が明らかになった。天理教里親は児童相談所から依頼された子どもを選ばずに受託して養育することが多く、大家族で生活していた。天理教里親は「おたすけ」と呼ばれる社会的弱者を教会内で受け入れ、一緒に暮らす伝統的な救済観を持ち、一般の里親は躊躇しがちな虐待経験や障がいのある子どもを受け入れていた。

里父・里母へのインタビュー調査（第 3 章）では、里親が養育を始めた動機、課題、里親の宗教的信条、里子との関わり方、里子が自立した後の関係について、里親家庭を訪問し面接調査を行った。里親は、18 歳までとされる養育期間が過ぎても里子との関係を維持することを希望し実践していた。里子との養育期間は限られているが、里親は里子との関係は永遠に続くと考えていた。宗教的行事への参加については、年長者の場合、養育期間が短いことや学校などの都合で参加が難しいことが多いことがわかった。

天理教里親への養育に関する調査（第 4 章）では、特徴ある社会的養育環境で育った A 天理教支部教会長の語りを分析対象として調査を行った。A 天理教支部教会長は過去に児童養護施設で養育を受け、その後、天理教の里親の家庭で育てられた。自立後、困難に直面し天理教に入信し、里親の天理教支部教会長を継承した。現在は 3 人の里子を養育する里

親である。A 支部教会長の語りを通じて、児童養護施設での課題や自立の難しさ、里親養育を決意する動機などを明らかにし、第 2 章および第 3 章の知見を補足した。

さらに、本論文では、天理教福祉施設の活動に関する調査（第 5 章）と地域の支部教会の社会参加に関する調査（第 6 章）も行った。天理教福祉施設の活動については、天理教が約 100 年前に創設した児童養護施設「天理養徳院」および「調布学園」を対象に、宗教法人から社会福祉法人化にともない、活動にはどんな変化が起きたかを調べた。両施設では、職員が天理教信仰者以外からも採用されるようになり、宗教行事は児童の自由参加に変わった。「調布学園」では職員の信仰者率 10% で、両施設とも公的施設化してゆく中で、次第に宗教色を薄めていることがわかった。

また、地域の支部教会の社会参加に関する調査（第 6 章）では、支部教会長の社会参加活動に焦点を当て、社会参加の種類、地域との連携、公的機関との関係性、教団の支援などを調査した。その結果、支部教会が地域で実践活動の課題を教団本部に支援の要請を行い、教団からはそれに応じて支援する形態があることがわかった。天理教福祉施設の活動と合わせて、天理教の地域での福祉活動が広がっていることが示された。

本論文では、天理教信仰者の里親養育活動に注目し、活動の調査を通じてその概要と社会参加における課題が明らかになった。天理教の里親の養育の数が増える理由は、特徴ある宗教的動機や、近年の社会的養育政策の変更が天理教の里子の数の増加に寄与していることがわかった。里親家庭は大家族で、社会的弱者を受け入れと共に暮らしという宗教的救済観があり、虐待経験や障がいのある子どもも躊躇せずに受け入れていた。しかし、宗教的動機による里親養育と、児童の権利擁護に基づく社会福祉としての里親養育との間には乖離があり、宗教者の社会福祉活動への参加には課題も存在することが明らかになった。